

第2章 トピックス ～令和6(2024)年度の話題～

1 2050年カーボンニュートラル実現に向けた新たな県民運動の展開

2050年カーボンニュートラル実現に向けて、削減目標の大幅な引き上げや、県民の責務・行動指針等を示した「栃木県カーボンニュートラル実現条例」の施行、国における「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動（デコ活）」の開始等を踏まえ、これまで展開してきた「COOL CHOICE とちぎ」県民運動を強化した新たな取組として「とちぎカーボンニュートラル15（いちご）アクション県民運動」を令和6（2024）年8月から開始しました。

当運動は、カーボンニュートラル実現に向けてオールとちぎで地球温暖化対策に取り組むことにより、とちぎの豊かな環境と安心して暮らせる社会を次の世代に引き継ぐという基本理念の下、脱炭素の行動が、豊かで快適・健康的な新しい暮らしにつながるというビジョンを共有することで、県民の行動変容を強く後押しすることを目的としています。

令和6（2024）年8月19日に開催したキックオフイベントでは、約400名の観客のもとで、新たな県民運動の名称をお披露目したほか、これまで低炭素・省エネを中心に県民に促してきた行動「15のこと」を、脱炭素を軸とした「15（いちご）アクション」に刷新し、紹介しました。

「15アクション」は、①今日からできる、②意識を高めて選択する、③機会を捉えて未来に投資の3つの難易度を設定し、それぞれ5種類ずつ合計15種類の脱炭素行動となっています（ピクトグラム参照）。

また、同年12月からは、認知度向上及び脱炭素行動に取り組む機運醸成のため、官民連携で普及啓発を行う「カーボンニュートラル15アクション県民運動協賛企業（愛称：ニュートラフレンズ）」の募集を開始するなど、普及啓発に努めてきました。

今後も、県民の行動変容を妨げる要因（時間・手間・費用等）の解消を目指し、脱炭素のメリットや意義を明確に伝えるとともに、企業等を巻き込みながら運動を展開していきます。



▲8/19キックオフイベントの様子



▲ロゴマーク



▲ピクトグラム



2 地域レジリエンス強化に資するEV・PHV等の導入促進

本県は、1人当たりの自家用車の保有台数が全国2位であるなど、全国有数のくるま社会であり、県全体の二酸化炭素排出量の約25%を交通分野が占めています。このため、交通分野の脱炭素化に向けて、ガソリン車から電気走行時に二酸化炭素を排出しない電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド（PHV）などの電動車への転換を促進しています。

また、近年、地球温暖化による気候変動の影響と思われる災害が激甚化・頻発化しており、大規模停電の発生も懸念されています。EV及びPHVは、蓄電機能を備えているため、災害時には、「動く蓄電池」として避難所等で給電活動を行うことが可能です。

このような、EV及びPHVの強みを生かして、交通分野における二酸化炭素排出量の早期削減と地域レジリエンス強化を同時に実現するため、令和6（2024）年度には、災害発生時の避難所での給電活動等への協力（災害時協力車登録）を要件とした事業者によるEV又はPHV導入への補助制度を創設し、初年度は46台の導入を支援しました。

県は、「2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」において、2030年度までに乗用車の6割を電動車に転換することを目標に掲げており、この目標の達成に向けて、引き続き、電動車の普及促進に取り組んでいきます。

《地域電源供給拠点の整備》

県では、大規模停電時に災害時協力車が優先的に充電できるスポット「地域電源供給拠点」の整備を促進しており、令和6（2024）年度に最初の拠点が整備されました。年度末までに拠点数は6か所となり、今後も引き続き整備を促進していきます。



3 有機フッ素化合物（PFAS）の対応

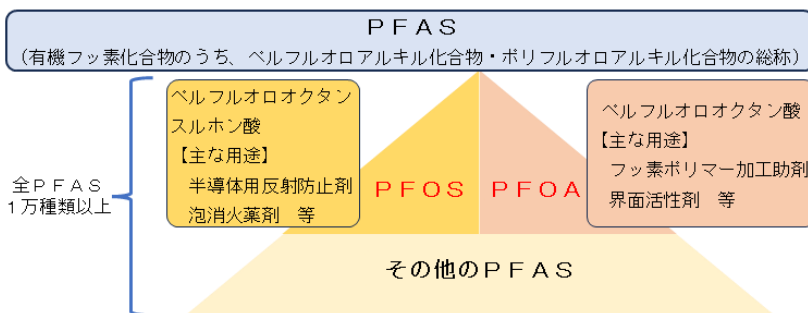
有機フッ素化合物（PFAS）の一種であるPFOS及びPFOAについては、令和2（2020）年に、公共用水域及び地下水における暫定指針値※（PFOSとPFOAの合算値で50ng/ℓ以下）が定められ、これを踏まえた地方公共団体等による調査等において、全国各地で指針値を超過した事例が確認されています。

こうした状況を受け、国は、令和5（2023）年に「PFASに対する総合戦略検討専門家会議」を設置し、国内外の最新の科学的知見の収集や知見に基づく総合的な対応を進めています。

県内においては、令和6（2024）年度に、初めて地下水の指針値の超過が確認され、県及び関係市では、周辺の地下水質調査や周辺住民への周知等の対応を行っています。

また、県と宇都宮市では、公共用水域及び地下水の水質調査を進めるなど、県内の実態把握に努めています。今後も引き続き、関係機関や市町と連携しながら、PFAS対策に取り組んでいきます。

※令和7（2025）年6月30日に「暫定指針値」から「指針値」に見直し



PFOS・PFOAは、PFASの一種で、幅広い用途で使用されてきましたが、環境中での残留性や健康影響の懸念から、国際的に規制が進み、現在では、日本を含む多くの国で製造・輸入等が原則禁止されています。なお、地下水等の指針値（50ng/ℓ）は、体重50kgの人が一生にわたって毎日2リットルを飲用したとしても、健康に悪影響が生じないと考えられる水準を元に国が設定したものです。

4 日光国立公園指定90周年記念フォーラムの開催

昭和9(1934)年12月4日に国立公園に指定された日光国立公園は、令和6(2024)年12月に90周年を迎え、これを記念して「日光国立公園指定90周年記念フォーラム」が開催されました。

当日は、県内外から約200名の参加者が集まり、基調講演やパネルディスカッション等を通して、日光国立公園ならではの素晴らしい価値や魅力を改めて見つめ直すとともに、これまでの保護と利用の取り組みについて理解を深めました。

また、10年後、100年後もこの地が多くの人々に愛され続けるよう、関係者や利用者の皆様とともに歩いていくことを宣言しました。



基調講演



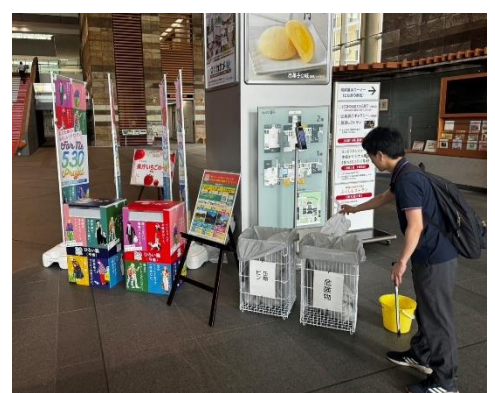
100周年に向けた宣言

5 530(ごみゼロ)キャンペーンの実施

「栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言」に基づくプラスチックごみ対策の一環として、個人の生活スタイルに合わせたごみ拾い活動が日常生活の中に定着するよう、「For me 530 project」と題した取り組みを、令和6(2024)年5月1日から7月31日までの期間で実施しました。

この期間中、ゴミ拾い活動を行い、その様子を応募いただいた方を対象に宿泊券などが当たるキャンペーンを実施した結果、1,281件の応募があり、ごみ削減やポイ捨て防止の意識醸成を図ることができました。

また、県職員及び市町職員が率先垂範する期間として、「とちぎ530率先ウィーク」(5月30日(ごみゼロの日)を含む1週間)を設定し、通勤途上でのごみ拾い活動を実施しました。



6 “とちぎのいい木” 非住宅建築物ウッドチェンジ事業の実施

本県の森林は70%以上が利用期に達しており、森林資源の高齢化が進んでいます。こうした中、カーボンニュートラルの実現や花粉発生源対策など、森林・木材への社会的な期待が高まっています。

利用期に達した森林資源が増大する中、新たな需要の創出が求められています。加えて、高齢化した森林は、二酸化炭素の吸収量が減少し、花粉の飛散量が増加する傾向にあることから、少花粉スギや他樹種への植替えなど、二酸化炭素を旺盛に吸収する「若い森林」への転換が課題となっています。

これらの課題解決には、「伐って・使って・植えて・育てる」という森林資源の循環利用を促進することが重要であり、その“出口”として木材需要を拡大していく必要があります。住宅需要が減少傾向にある中で、本県の木材需要を下支えするには、非住宅分野における木材利用の促進が重要です。

こうした新たな木材需要の創出に資する取組として、令和6（2024）年度から「“とちぎのいい木” 非住宅建築物ウッドチェンジ事業」を開始しました。本事業は、とちぎ材を使用して構造を木造化または内装等を木質化した建築物に対し、延床面積、木質化面積に応じて補助するものです。補助の要件として、構造材の80%以上に県産木材を使用することなどを定めており、施設の普及性や技術的工夫などについて、外部有識者等による審査結果に基づき補助を実施しています。令和6（2024）年度は木造化15件、木質化1件の計16件を採択し、従来は鉄骨造（S造）で建築されていたような物件が、木造へと転換されました。



活用事例

7 R6.8豪雨災害により発生した山地災害及び林道施設災害の対応

令和6（2024）年8月25日16:00から26日8:00にかけて、県西部を中心に日雨量300mmを超える大雨となり、大久保観測所では304.0mmを記録しました。短時間かつ局所的な豪雨により、29箇所で山地災害が発生し、70路線の林道施設が被災しました。

これを受けて、崩壊した斜面の安定化や荒廃した溪流の復旧を目的とした治山事業を計画し、対策工事を実施しています。また、林道は森林施業の効率化や木材の安定供給に不可欠であるため、早期の機能回復を図るべく、排土や排水施設の修復、路面の改修など復旧工事を行っています。

さらに、災害対策工事などのハード対策に加え、山地災害地区の地図情報の公表や防災講習会の開催など、地域住民の避難行動に必要な情報提供の充実を図るソフト対策にも取り組んでいます。

